

令和7年度 長吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	78	53	47	4.5	6.4
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	504
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3年	学校	89	66.6	52.3	52.1	45.4	50.8	4.4	4.3	9.9	7.9	4.5
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 長吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語>

平均正答率では全国平均を1.3ポイント下回ったものの、府平均を1.0ポイント上回ることができた。
無回答率では全国平均を2.2ポイント、市平均を2.3ポイントそれぞれ上回った。

領域別での平均正答率では、

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項で全国平均を4.5ポイント、府平均を4.8ポイントそれぞれ上回った。

A 話すこと・聞くことでは全国平均を3.8ポイント、府平均を1.3ポイントそれぞれ下回った。

B 書くことにおいて全国平均を2.9ポイント、府平均を0.6ポイントそれぞれ下回った。

C 読むことでは全国平均を3.1ポイント、府平均を4.2ポイントそれぞれ上回った。

<数学>

平均正答率では、全国平均を1.3ポイント下回ったものの、府平均とは同値であった。

無回答率では全国平均を4.2ポイント、市平均を4.8ポイントそれぞれ上回った。

領域別での平均正答率では、

A数と式では全国平均を4.0ポイント、府平均を2.9ポイントそれぞれ下回った。

B図形では全国平均を0.9ポイント、府平均を1.2ポイントそれぞれ上回った。

C関数では全国平均を0.1ポイント、府平均を2.0ポイントそれぞれ上回った。

Dデータの活用では全国平均を1.3ポイント下回ったものの、府平均を2.4ポイント上回ることができた。

<理科>

平均IRTスコアでは、全国平均を1ポイント、市平均を15ポイントそれぞれ上回ることができた。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>平均点で府平均を2.4ポイント、市平均を1.8ポイント上回ることができた。

<社会>平均点で府平均を1.1ポイント、市平均を0.8ポイント上回ることができた。

<数学>平均点で府平均を1.8ポイント、市平均を2.2ポイント下回った。

<理科B>平均点で府平均を0.6ポイント、市平均を1.1ポイント下回った。

<英語>平均点で府平均を2.4ポイント、市平均を3.6ポイント下回った。

【今後に向けて】

<国語>

学力調査では、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」「C 読むこと」の各領域において全国平均を上回ることができたものの、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」の各領域において全国平均を下回った。その中でも特に「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題において、全国平均値との開きが大きく、本校生の特徴として「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」が苦手であることが浮き彫りになった。今後、発表等の機会を増やし、改善をしていきたい。

<社会>

チャレンジテスト(3年生)では、多くの領域において府平均を上回ることもできたものの、歴史分野では化政文化や井伊直弼に関する問題において府平均を下回った。また、「釧路における霧日数が多い理由を書く」問題において府平均を3.5ポイント下回った。江戸時代の歴史と、知識をベースに文章化する能力の向上に取り組む必要がある。

<数学>

無回答率が低く、最後まで諦めず問題に取り組む姿勢は養われている。また、習熟度別指導の甲斐あって学力調査の「B 図形」「C 関数」の各領域において全国平均を上回ることができた。しかしながら、「A 数と式」では全国平均に比べ、随分と開きがある。特に「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明する」能力を高める必要がある。

<理科>

学力調査では、全国平均を上回ることができた。設問別に見てみると、「塩素の元素記号を記述する」問題において全国平均を10.5ポイント、府平均を9.8ポイントそれぞれ上回り、化学分野において大いに力のついていることが示せた。しかしながら、「地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する」問題においては全国平均を4.9ポイント、府平均を2.2ポイントそれぞれ下回った。今後の課題として地学分野を中心に取り組む必要があることがわかる。

<英語>

チャレンジテスト(3年生)では、会話の問題において府平均を上回ることもできたものの、「与えられた情報に基づいて、指示された語数で正しい英語を書くことができる」問題において府平均から最大10.3ポイント下回った。作文能力の向上に取り組む必要がある。

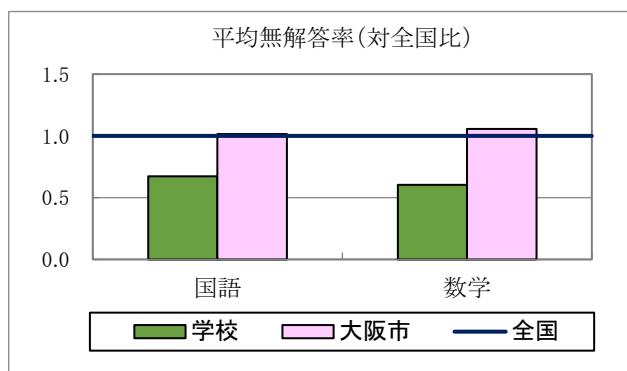
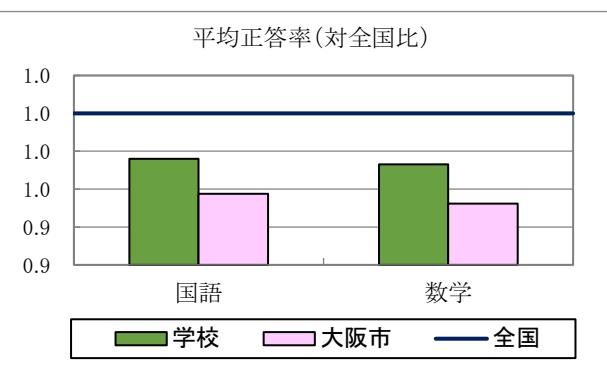
令和7年度 長吉中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	47
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

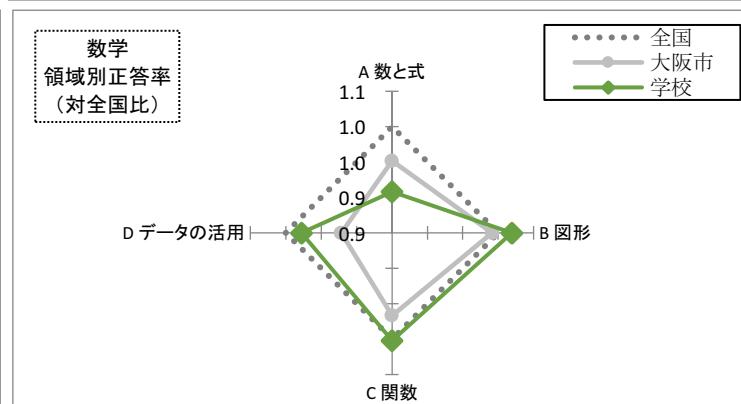
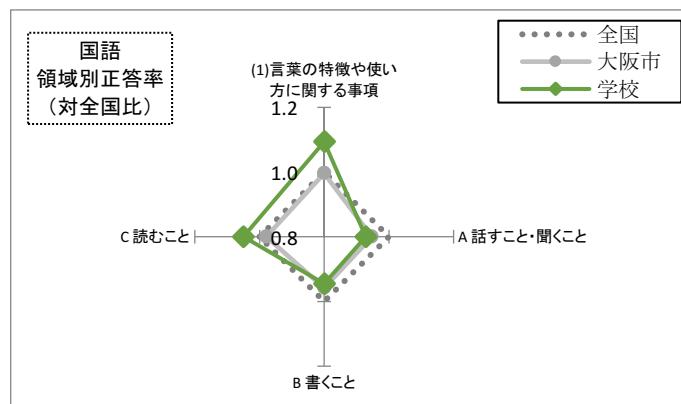
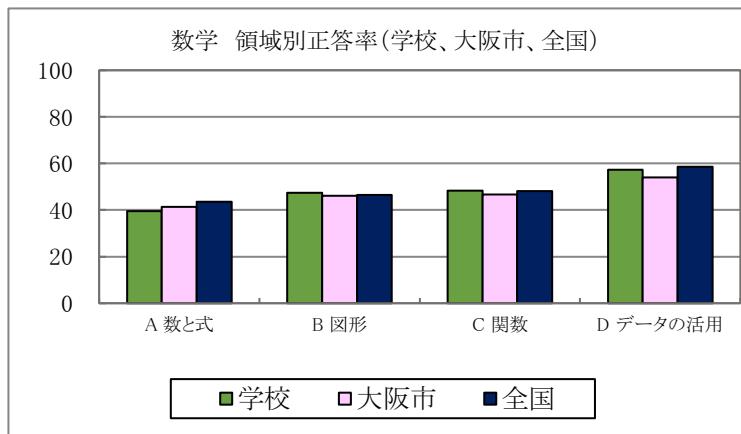
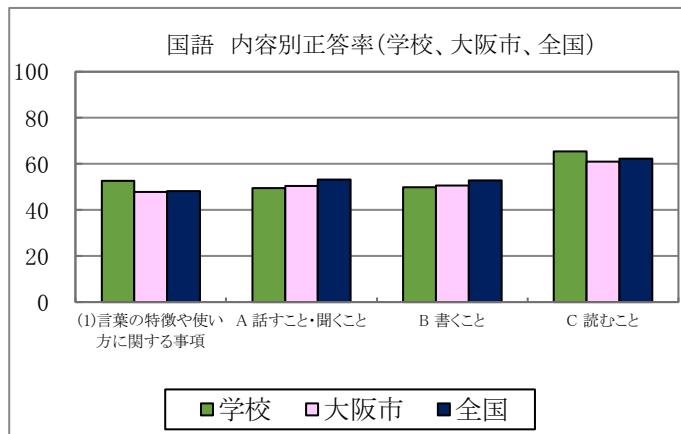
平均無解答率(%)	
国語	数学
4.5	6.4
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	52.6	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	49.4	50.4	53.2
B 書くこと	5	49.9	50.6	52.8
C 読むこと	3	65.4	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	39.5	41.4	43.5
B 図形	4	47.4	46.1	46.5
C 関数	3	48.3	46.6	48.2
D データの活用	3	57.3	54.0	58.6

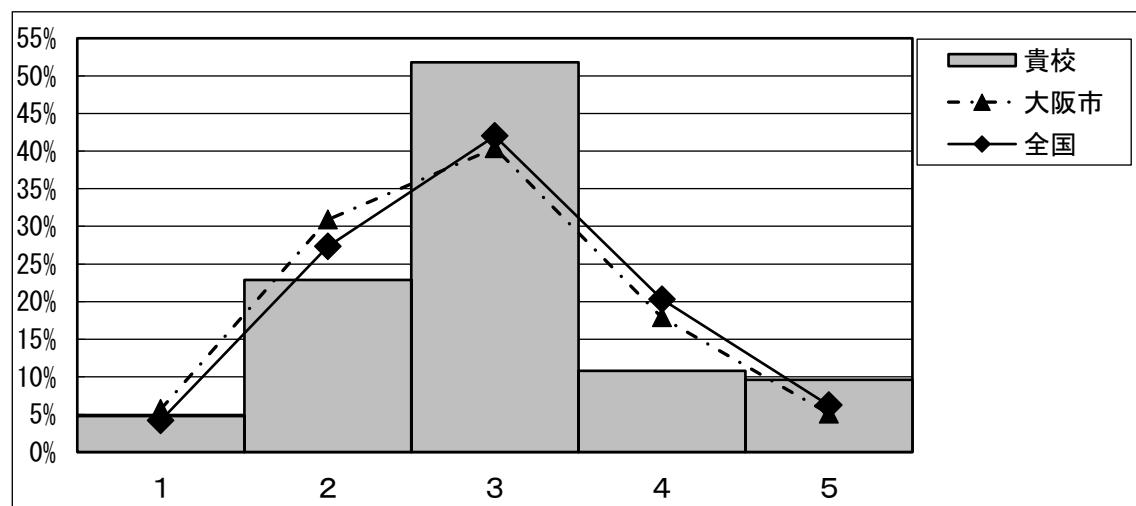
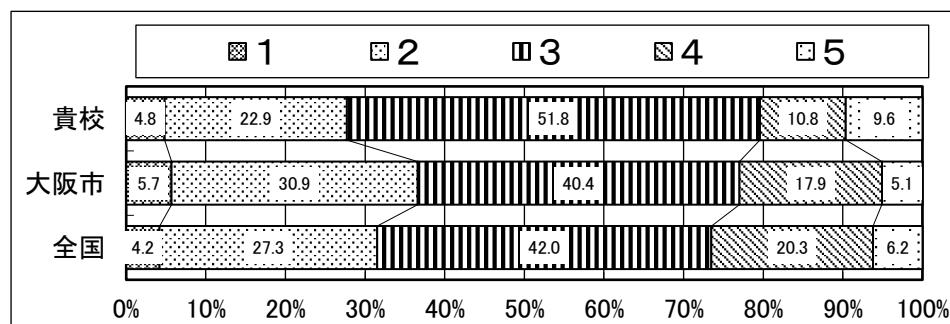


令和7年度 長吉中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	504
大阪市	489
全国	503



令和7年度 長吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

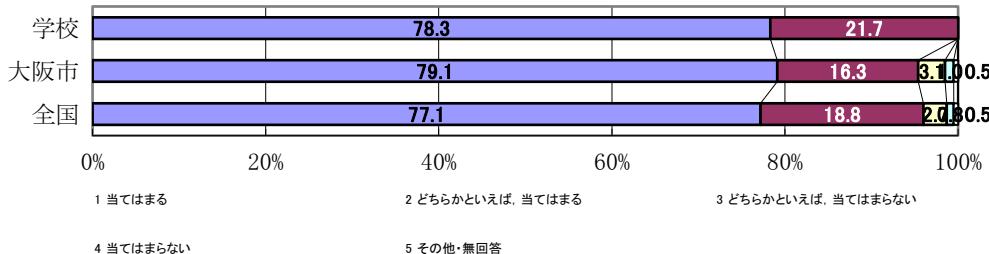
生徒質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

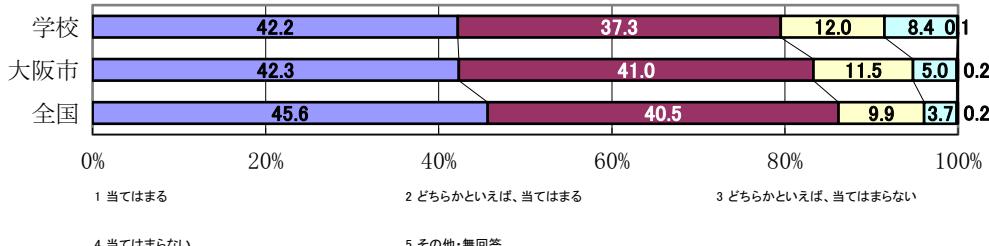
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



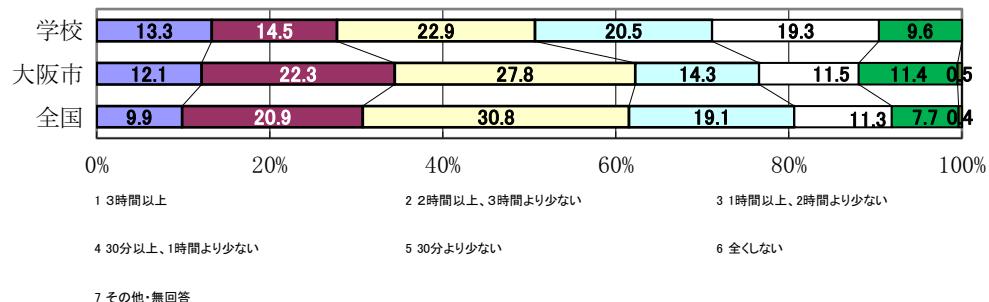
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



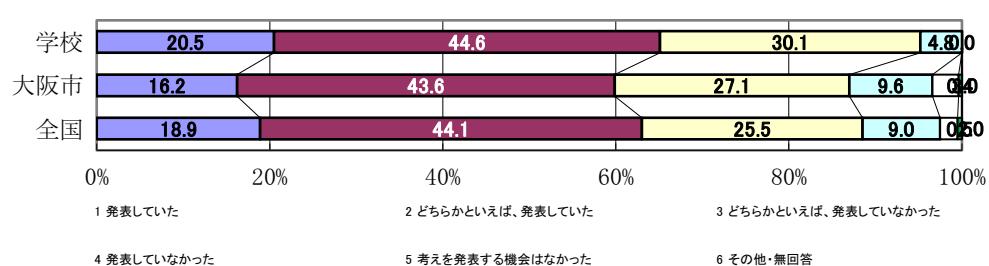
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



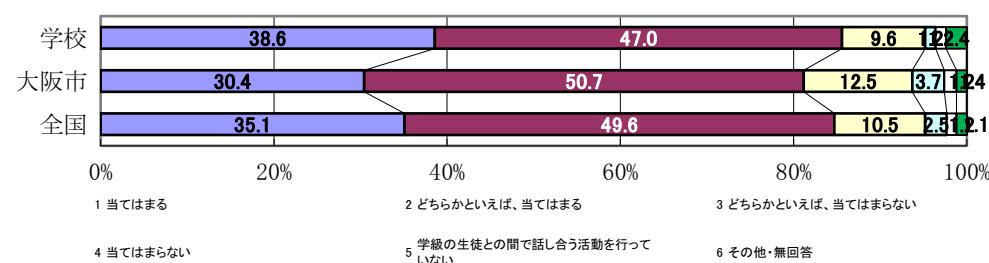
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



令和7年度 長吉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

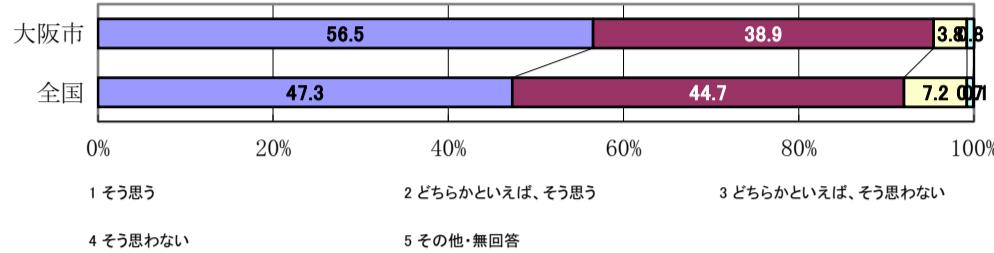
□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

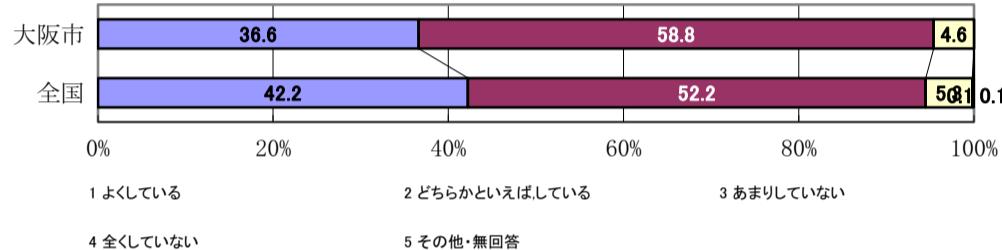
学校 「そう思う」を選択



14

教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

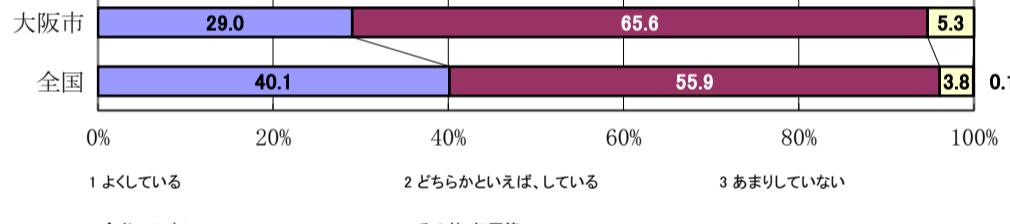
学校 「よくしている」を選択



15

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

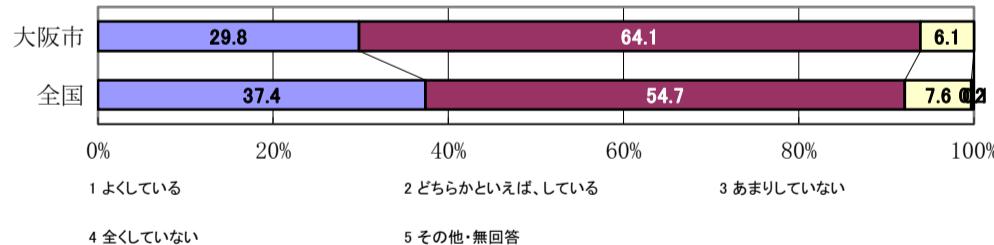
学校 「よくしている」を選択



16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

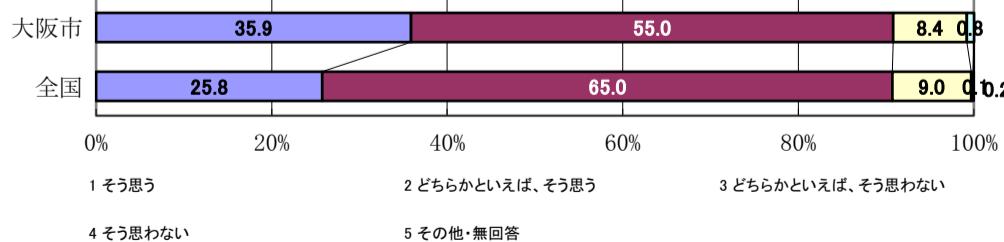
学校 「よくしている」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択

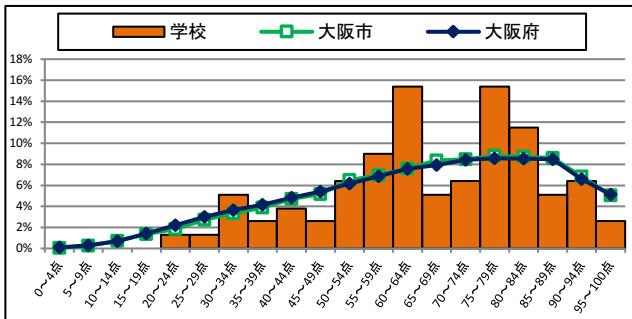


大阪市立長吉中学校 令和7年度「中学生チャレンジテスト(3年生)」検証用グラフ

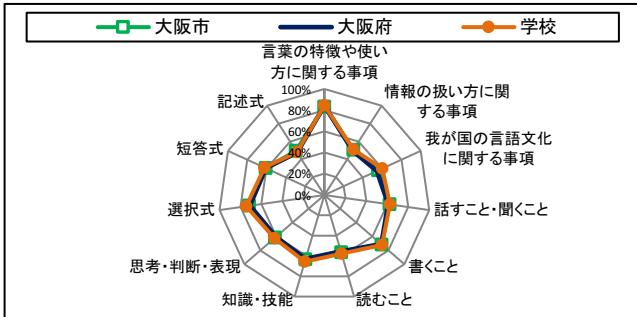
令和7年9月2日(火)実施

【国語】

【得点分布】

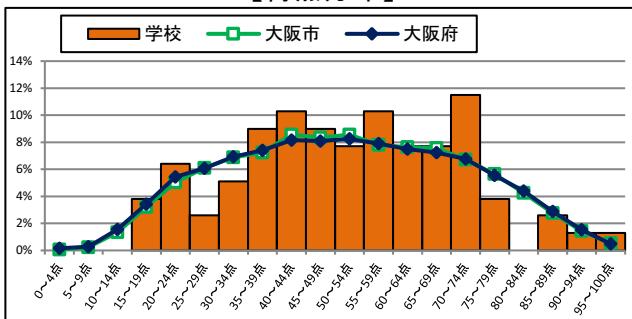


【内容・観点・問題別の分布】

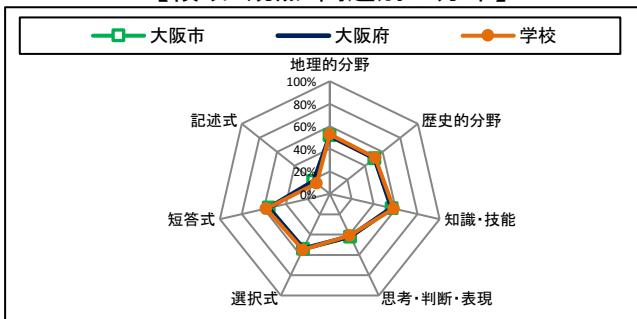


【社会】

【得点分布】

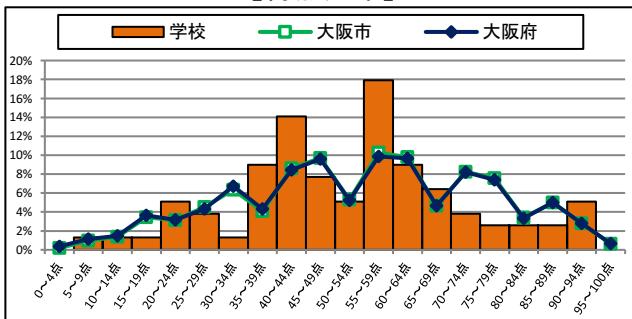


【領域・観点・問題別の分布】

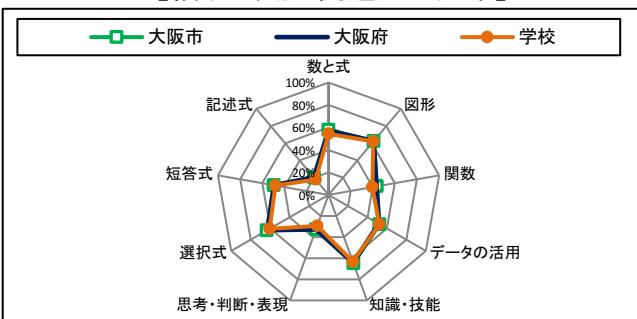


【数学】

【得点分布】

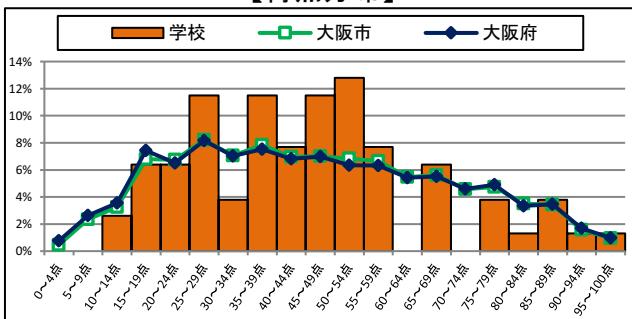


【領域・観点・問題別の分布】

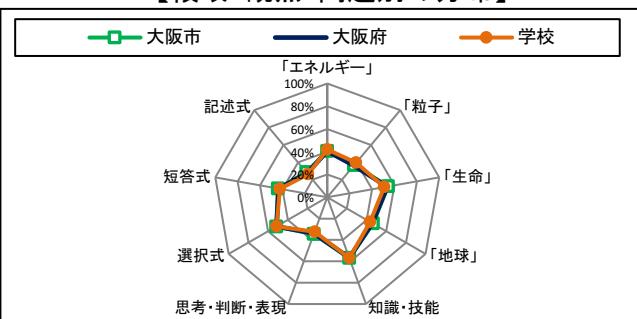


【理科B】

【得点分布】

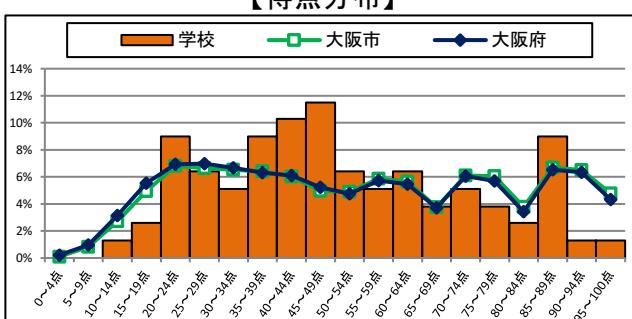


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

